

けいとう

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病害虫名													
3 月 ま き 露 地			↑ ● は種	——	↑ ▲ 定植	——	——	——	■	■			
5 月 ま き 露 地						●	▲	——	■	■			
苗立枯病				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
輪紋病				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
茎腐病				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
疫病				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
シロオビノメイガ				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
ヨトウムシ				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
アブラムシ				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
アザミウマ				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
ハダニ				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
ネコブセンチュウ				——	——	——	——	——	——	——	——	——	——

苗立枯病

留意事項

- 1 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。

防除方法

- 1 連作地での育苗を避ける。
- 2 加湿を避ける。発芽後は、むし込みを避け、風通しをよくして徒長を防ぐ。
- 3 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【リゾクトニア菌 花き類・観葉植物 20~30kg/10a は種または植付前/1回】

- 4 は種前の種子に下記の薬剤を処理する。

・ [ホーマイコート](#) M3 ☐1 【種子重量の2~3% 種子粉衣 は種前/1回】

・ [ホーマイ水和剤](#) M3 ☐1

【種子重量の1.0% 種子粉衣 または200倍 30分間種子浸漬 は種前/1回】

- 5 発生前に下記の薬剤を散布する。

・ [オーソサイド水和剤80](#) M4

【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ) 600倍 -/8回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

輪紋病

防除方法

- 1 切花栽培の場合、連作を避ける。
- 2 被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 排水、通風、日当たりを良好にする。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1,500～2,000倍 ー／5回】

茎腐病

防除方法

- 1 切花栽培の場合、連作を避ける。
- 2 切花栽培の場合、多発ほ場では土壤消毒を行う。(XⅢ土壤消毒 参照)
 - ・ [キルパー](#) — 【リゾクトニア菌 花き類・観葉植物
原液として60L／10a は種又は定植の15日前まで／1回】
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) M4
【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ)
600倍 ー／8回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1,500～2,000倍 ー／5回】
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) 14
【花き類・観葉植物 500～1,000倍 土壤かん注 3L／㎡ 生育期／5回】

疫病

防除方法

- 1 切花栽培の場合、連作地での育苗を避ける。
- 2 被害株は、株元の土とともにほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 排水、通風、日当たりを良好にする。
- 4 切花栽培の場合、土の跳ね上がり防止のために、わらまたはポリフィルムでマルチングを行う。
- 5 花苗・鉢栽培の場合、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) 11 4
【花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培、除きく)
土壌1L当たり0.25～0.5g 土壌混和 鉢上げ時／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [オラクル顆粒水和剤](#) 2 1

【花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培) 2,000倍 土壌かん注
ポット使用土壌約1L当り100mL 鉢上げ時又は鉢替え時又は生育期／3回】

シロオビノメイガ

防除方法

- 1 ほ場周辺の除草を行う。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【2,000倍 発生初期／3回】
 - ・ [ノーモルト乳剤](#) 1 5 【2,000倍 発生初期／2回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 コテツフロアブルは府内のけいとうで薬害の報告があるため、注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【花き類・観葉植物 1,000倍 発生初期／5回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN
【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1,000倍 発生初期／4回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8
【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ
2,000倍 発生初期／4回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2,000倍 発生初期／2回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を0.8mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の雑草を除去する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【花き類・観葉植物(除きく) 2,000~3,000倍 発生初期/5回】
- ・ [アディオン乳剤](#) 3 A
【花き類・観葉植物(除はぼたん) 2,000~4,000倍 発生初期/6回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B
【花き類・観葉植物 4,000倍 発生初期/4回】
- ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1,000倍 発生初期/5回】

4 ハウスでは、くん煙剤の使用も有効である。(Ⅷ省力安全防除 1くん煙 参照)

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネット(赤色ネットは0.8mmも可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 2 ほ場内外の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) 5
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2,500~5,000倍 発生初期/2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6【花き類・観葉植物 2,000倍 発生初期/5回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2,000倍 発生初期/5回】
 - ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1,000倍 発生初期/5回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ナミハダニは薬剤抵抗性が生じており、効果の劣る薬剤も出てきているため、薬剤選択は特に注意する。
- 3 コテツフロアブルは府内のけいとうで薬害の報告があるため、注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [カネマイトフロアブル](#) 20B

【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム)

1,000倍 ー／1回】

・ [ダニオーテフロアブル](#) 33 【花き類・観葉植物 2,000倍 発生初期／2回】

・ [バロックフロアブル](#) 10B 【花き類・観葉植物 2,000倍 発生初期／1回】

・ [コテツフロアブル](#) 劇 13

【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2,000倍 発生初期／2回】

ネコブセンチュウ

防除方法

1 連作を避ける。

2 土壌消毒を行う。(XⅢ 土壌消毒 参照)

3 下記の薬剤を施用する。

・ [ネマキック粒剤](#) 1B

【花き類・観葉植物(除きく) 20kg／10a 全面土壌混和
植付前又は定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。